

4 まちづくり課

〔実施した施策・事業の内容及び成果並びに今後の目標及び課題〕

(地域づくりグループ)

○ まちづくり団体支援

まちづくり団体等（ボランティア団体、NPO、企業等）が行う地域課題の解決に向けた取り組みを支援することで多様な主体が連携・協力し、活発に活動できる協働のまちづくりを推進しています。その一つとして、県のわがまちつながり構築事業等を活用して「まちづくりチャレンジプロジェクト」を実施しました。年度当初に、まちづくり団体等が実施する事業の公募や応募のあった事業の審査を行い「さんばからす」、「ブリューコロニー」の2団体の事業を採択して、活動を支援しました。また、9月21日と12月21日の2回にわたり、JR鳥山駅前にある「コミュニティスペースぷらっと」において、まちカフェを開催しました。この事業は、まちづくり団体や市民との交流の場を提供するために開催したもので、第1回はまちづくりチャレンジプロジェクトの採択団体である「さんばからす」のメンバーをゲストに、第2回はメグロキャノンボール那須烏山実行委員会のメンバーをゲストに、それぞれの団体の活動報告や参加者との意見交換を行いました。

今後もまちづくり団体等との連携・協力を一層強化し、公共の担い手育成、市民参画による地域課題の解決、市民活動の活性化等を図って協働のまちづくりを推進していきます。

○ 公共交通

公共交通施策の指針となる「地域公共交通計画」（計画期間：令和3～7年度）に基づく各種事業を実施し、市民生活に有効で持続可能な地域公共交通の構築を目指しました。

地域公共交通空白地域解消対策としては、デマンド交通を運行しました。1日平均利用者は南那須地区で約25人、鳥山地区で約41人と、公共交通として市民の移動手段の確保に努めました。

自家用有償バスは、令和5年度からの新委託により路線運行を行いました。市埴黒田鳥山線では、道路環境の変化に対応するため10月にダイヤ改正を実施するとともに、バス車両の大規模故障に伴い車両の小型化を実施するなど経費削減も図りました。引き続きコミュニティバスとともに安定運行を目指しながら、令和7年度からの新委託に向け、利用者や関係機関等との調整を進めます。なお、令和3年度に提起した自家用有償バスエンジン故障に係る損害賠償請求訴訟は、令和6年3月に和解が成立しました。

JR鳥山線利用向上対策では、4月に同線が開業100周年を迎えたことから、これを契機に利用向上、「からせん」に対する市民愛の醸成に取り組み、記念事業の実施に当たっては、行政、JR東日本大宮支社、関係団体等で組織する実行委員会を設立し各種事業を進めました。また、通学定期券購入費補助、団体利用促進助成制度を創設し利用を呼び掛けるとともに、市職員が率先して通勤や休日にJR鳥山線等を利用する「公共交通チャレンジウィーク」を実施し、今後も継続をしていく予定です。これらの取り組みにより、令和5年度におけるJR鳥山線の平均通過人員は1,144人／日となり、7年ぶりに前年の実績を上回ることができました。今後もJR東日本大宮支社とも連絡を密にし、鳥山線利用向上のための協議や取り組みを継続していきます。

○ 地域の学校を核とした地方創生事業

連携事業である県立鳥山高等学校の地域課題解決型キャリア教育「鳥山学」は、今年で7年目になりました。鳥山学は、グローバル人材の育成と将来地域社会で活躍するリーダーの育成という、地域社会から期待される役割を果たすため、全生徒が各学年において、それぞれプログラムを設定

し、本市をフィールドにした地域課題の解決型学習を行うことで、自ら課題を発見し、解決を図る力や社会参画等の実践力を育成する取り組みです。市としては、プログラムに応じた関係機関との連絡、調整を行いながら、学習効果の向上を目指しました。令和5年度は、なすからブランドに認証されている那須野紅茶を使用したスイーツの商品化、高齢者等を対象にしたスマホ教室の開催など市の施策に反映される具体的な成果を残しています。今後も事業充実に向けた人的・財政的な支援を行っていきます。

(定住推進グループ)

○ シティプロモーション

市シティプロモーション第2期基本方針の計画期間の満了に伴い、新たな基本方針の策定に向けて作業を進めてきました。誰もが市のシティプロモーションの方向性を共有し、オール那須烏山の体制で推進できる内容になるよう引き続き策定作業を進めていきます。また、シティプロモーションの一環として、各種イベント等に参加しました。6月10日に県庁前広場等で開催した栃木県誕生150年記念県民の日イベントにおけるイメージキャラクター参加とブースの設置、7月22日にJR烏山駅前で山あげ祭の来訪者を対象にした案内所でのチラシ配布、10月9日に東京スカイツリーとちまるショップ特集企画なすからブランド認証品PR・物販に参加、3月24日にサトーカメラと連携した一般参加者による市内撮影会の開催など機会を捉えながら、市の魅力発信を行いました。今後も将来にわたって本市に住みたい、住み続けたいと思われるまちを目指していきます。

○ なすから特派員SNS情報発信事業

市内外の方に市の魅力発信を強化するため、令和2年度から、なすから特派員SNS情報発信事業を実施しています。令和5年度も公募を行い、なすから特派員新規4人、更新9人の合計13人を委嘱しました。委嘱した13人は、個人のInstagramアカウントを使用して市の魅力等について、年間を通じて発信に努めていただきました。また、なすから特派員の活動や情報発信等を効果的に行うため、なすから特派員による意見交換会やInstagramに投稿した写真を市役所両庁舎や龍門ふるさと民芸館に掲出した写真展を開催しました。意見交換会では、情報発信事業の課題や活動における困りごと相談など相互に情報交換を行うことができました。

○ 地域おこし協力隊

平成28年度から令和元年度にかけて、1期生3名を隊員として任用し、令和元年度から令和2年度にかけては2期生1名を任用しました。任期終了後は1名がキッチンカーによる移動販売で起業し、3年間地域で活動したほか、1名が本市に定住し観光協会の職員として活躍しています。

3期生は、令和4年4月から1名を隊員として任用し、シティプロモーションの業務を中心に、JR烏山線100周年記念に関する特設サイト開設、烏山城跡の特設サイト開設、いちごの学校WEBサイトの開設等を行いました。また、4期生は、令和5年4月から1名を隊員として任用し、シティプロモーション・移住定住の推進の業務を中心に、空き家等情報バンクの登録物件を紹介するためのVR技術を活用した動画の作成、関係人口創出に向けた企画立案を行いました。

○ 移住定住支援

移住者や二地域居住者等に空き家を紹介する空き家等情報バンク制度では、2月に市内の空き家所有者を対象にした空き家等情報バンク制度の説明会を開催し、処分に困った空き家の活用方法等を周知しました。移住相談では、空き家等情報バンクなど住まいに関する相談件数が昨年度より増加しました。引き続き、関係団体等と連携を図り、移住定住支援に努めていきます。また、令和5

年度も「移住促進住宅取得奨励金」、「移住ファミリー家賃補助金」、「空き家バンク住宅改修補助金」による支援を行いました。加えて令和5年度から「住宅リフォーム助成金」を創設し、定住者の住環境の整備に努めました。これらの取り組みにつきましては、広報紙、広報お知らせ版、市ホームページ、市公式 SNS で周知しました。転入者や定住者の増加に寄与することができました。今後も定住者への満足度の向上を視野に入れながら、移住相談や定住促進特設サイト「なすからいふ」の充実を図り、移住定住促進につながるよう努力していきます。

○ 都市間交流

災害時における相互応援協定を締結している東京都豊島区とは、平成18年から14回にわたり交流事業「自然に触れよう！いなか川遊び」を実施していましたが、コロナ禍の影響により中止となり、再開の目途がたっていない状況です。また、同じく災害時における相互応援協定を締結している埼玉県和光市とはスポーツ交流会を交互に開催しており、今年度は和光市においてミニバスケットボールで交流を行いました。

関係人口の創出では、まちづくり団体「さんばからす」の活動を支援し、「真夏の地域留学（2泊3日）」を8月から11月にかけて開催しました。市外の大学生等30人が参加し、市内飲食店のPR、メグロキャノンボール子供企画への参加、大木須地区における地域づくりをテーマにしたワークショップやフィールドワークを行い地域活性化に取り組みました。また、ふるさと烏山会の事務局として、5月に東京で総会、10月に市内で役員会を開催し、本市出身者間の親睦を図りました。

(環境グループ)

○ 地球温暖化対策

平成21年度に設置した南那須図書館太陽光発電設備及び平成26、27年度に「市町村防災拠点施設再生可能エネルギー等導入支援事業」により整備した6施設の運営管理を通じ、再生可能エネルギーの啓発を図りました。また、温室効果ガス削減に向けた省エネルギーの推進及び普及啓発を図りました。

第2次環境基本計画が令和5年度をもって期間が終了することから、令和6年度から令和10年度を計画期間として、「地球温暖化対策実行計画」及び「地域気候変動適応計画」を新たに組み入れた第3次環境基本計画を策定しました。

○ 公害防止対策

環境基本法、水質汚濁防止法、大気汚染防止法、騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法をはじめとする法律や、栃木県生活環境の保全等に関する条例に基づいた各種届出の指導を行い、市民からの環境苦情については、速やかに現場確認を行うとともに、適切な指導を行いました。

市土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例（土砂条例）に基づく新規小規模特定事業許可は、野上地内で1箇所あり、審査指導等を行いました。今後も栃木県及び関係機関と連携し監視、指導等を行い、条例の適正、厳正執行に努めていきます。

○ 公共用水域水質の監視

環境基本法第16条で定められる環境基準等7項目について、市内河川23地点での水質検査を実施し、水質状況の把握と監視を行いました。

○ 畜犬登録及び狂犬病予防注射と動物の適正飼養

犬の登録、予防注射の接種及び繋留など、狂犬病予防法に基づく犬の適正飼養について、広報やホームページにより啓発しました。また、放し飼いや排泄物処理、捨て犬・猫への無責任な餌やり

等の苦情に対し、栃木県動物愛護指導センターと連携を図り指導等を行いました。

飼い犬等が不必要に繁殖して不当に捨てられることを防止し、動物愛護思想を高めることを目的とした飼い犬等不妊手術費補助金は、獣医師により飼い犬等の不妊手術を受けた者を対象として、1世帯1頭につき雌犬5千円、雌猫4千円の補助を行いました。

また、猫による糞尿等の被害の軽減等を図るため、猫よけ器の試行の為に貸し出しを行いました。

○ 空き家対策

管理不良な空き家の相談や苦情等について、関係各課（総務課・まちづくり課・税務課・都市建設課・商工観光課）と連携・協力のもと、現地確認や対応方針の検討を実施し、所有者等への適正管理の要請を行いました。

○ 生活環境の整備充実

ごみの収集運搬は、市内を4区域に分け一般廃棄物収集運搬業務として4業者に委託し、「家庭ごみ収集カレンダー」の日程・分別により収集運搬を行いました。スマートフォン・タブレット用ごみ分別アプリを4月1日から「さんあーる」に移行し、利便性を高めました。累積ダウンロード数（令和5年度末）は、1,138件です。

保健衛生センターへの一般廃棄物搬入量は、減少傾向で推移しており、令和5年度の搬入量は、前年比5.3%減少しました。廃棄物が多様化し循環型社会形成が望まれることから、発生抑制・分別徹底によるごみの3R（減量：Reduce（リデュース）、再利用：Reuse（リユース）、再生利用：Recycle（リサイクル））を啓発・推進するとともに、生活環境の美化と意識の向上を図るため、関係機関と連携して環境美化活動を推進しました。

ごみの分別・減量化については、広報、ホームページ、ごみ分別アプリ、家庭用ごみの分け方・出し方等により普及啓発を図りました。

○ ごみ減量化対策

生ごみの減量と資源化を促進するため、生ごみ処理機器設置補助金交付を行いました。平成27年5月から、小型家電に含まれる金属やプラスチックの再利用促進を目的とした小型家電回収ボックスを、市役所烏山庁舎、南那須庁舎、保健福祉センター、烏山公民館に設置し、拠点回収を実施しています。令和5年度は8,753kgを回収し、のべ37,599kgとなりました。また、インクカートリッジの拠点回収も実施しています。

11月に「なすからつながるフェスタ」に合わせ、保健福祉センター駐車場において小型家電、製品プラスチックリサイクル回収を実施しました。

今後もごみ減量化・資源化の推進と市民の環境意識の向上に努めていきます。

○ 不法投棄の防止

法律に基づく現地立入検査の職権を得るため、環境グループの職員が栃木県職員として併任辞令を受けています。また平成26年度から廃棄物監視員を2名体制とし、環境衛生・清掃等の監視体制を強化するとともに、不法投棄や公害の早期発見・早期処理に努め、快適な生活環境の推進を図りました。

(1) まちづくり団体支援

① わがまちつながり構築事業

団体名 (事業名) 代表者	目 的・実 績	総事業費	補助金
JR烏山線開業100周年記念事業実行委員会 (JR烏山線開業100周年記念事業) ※単独事業 代表者 川俣 純子	令和5年4月に迎えたJR烏山線開業100周年の記念すべき節目を契機に、市民のJR烏山線に対する愛着心醸成及び利用向上を図った。また、地域の玄関口であるJR烏山線の利用を呼び掛け、イベント等について広く周知することで、地域住民や市内外からの誘客を図り、将来的な関係人口の創出に寄与した。 ・山あげ祭開催時に100周年記念大屋台パレード(市民参加型)を実施 ・ノベルティグッズ制作、配布(列車カード、ノート) ・烏山駅構内看板制作 ・100周年記念イベント(記念式典、マルシェ、抽選会等) ・各種プロモーション実施(横断幕、ターポリン幕、懸垂幕、チラシ、ホームページ)	5,103,248円	市補助金 5,000,000円 (内県補助金分) 2,500,000円
八咫烏フォーラム事業実行委員会 (八咫烏フォーラム事業) ※単独事業 代表者 中村 彰太郎	本市の名前の一部でもある烏と、令和5年3月に烏山城跡が国の史跡として指定を受けたことにより、八咫烏フォーラムを開始し、関係人口の創出を図った。 ・山あげ会館にて烏に関する展示会開催 ・烏山城に関する講話 ・烏に関するフォーラム ・烏に関するリーフレットや小冊子の作成	2,665,967円	市補助金 1,000,000円 (内県補助金分) 500,000円

② まちづくりチャレンジプロジェクト事業

団体名 (事業名) 代表者	目 的・実 績	総事業費	補助金
さんばからす (真夏の地域留学 ～地域に根差した 人材の育成と地域 との連携を目指す 地域活性化プロジ ェクト事業～) 代表者 武田 真悠香	就活世代の学生をターゲットに、那須烏山市の地域資源や魅力・課題を知り、地域とのつながりを作るプログラムを実施し、市の関係人口の創出を図った。 ・県内を中心とした大学ゼミなどで参加者を募集 ・学生が市内20店舗の魅力について取材を行う「ひ・み・つ」アート企画プログラムを実施 ・多世代アイデア交流会議でメグロ・キャノンボール那須烏山の子供企画を検討し、企画を実行。 ・古民家大木須にて地域づくり活動についての講話と交流会を実施	622,633円	市補助金 500,000円 (内県補助金分) わがまちつながり構築事業 250,000円
株式会社ブリュー コロニー (地場産農産物を 活用した商品開発 による地域PR) 代表者 佐藤 篤	市産の農産物を活用した商品開発として、日本みつばちのハチミツ、ゆずを使ったビールを醸造し、山あげ祭や県内外のイベントに出店し、那須烏山市のPRを行った。 ・イベント出店 8回 市内(山あげ祭) 1回 県内(那須塩原市・小山市他) 4回 県外(東京都・茨城県・千葉県) 3回	1,033,293円	市補助金 500,000円

③ コミュニティ助成事業

団体名 (事業名) 代表者	内 容・成 果	総事業費	補助金
熊田西自治会 (一般コミュニティ 助成事業) 自治会長 川上 久男	・祭礼用大太鼓(1.6尺)、大太鼓(1.5尺)大拍子太鼓(1.2尺)、台座の購入。 ・破損により使用できなくなっていた祭礼用太鼓を整備したことで、今後、秋祭りで使用することができるようになった。コロナ収束後のコミュニティ活動の活性化に寄与することが見込まれる。	2,530,000円	2,500,000円
泉町自治会 (一般コミュニティ 助成事業) 自治会長 南木 敏之	・半纏・浴衣の新調。 ・自治会コミュニティ活動の目玉事業である「山あげ行事」の継続性の確保及び活性化が図られたことで、地域住民の連携強化とコミュニティ活動への関心を高めることができた。	2,501,400円	2,500,000円

(2) 公共交通

① JR烏山線利用向上対策

ア 利用状況

年 度	烏山線の平均通過人員（人／日）
令和4年度	1,120
令和5年度	1,144

※JR東日本公表

イ JR烏山線通学定期券購入費補助金（新規）

年 度	実人員（人）	交付額（円）
令和5年度	283	4,235,800

ウ JR烏山線団体利用促進助成金（新規）

年 度	利用者（人）	交付額（円）
令和5年度	308	210,410

エ JR烏山線開業100周年記念事業（主な取組）

㊦ プロモーション関係

「からせんの思い出」エピソード募集・広報掲載

プロモーション動画公開（第1・2・3弾）

ターポリン幕看板設置（中央交差点）

烏山駅構内看板リニューアル

利用向上懸垂幕設置（烏山・南那須庁舎）

特別企画展（山あげ会館、南那須図書館）

ノベルティ作製（ノート、列車カード）

アキュム絵画コンテスト・作品展示

なすから交通ガイドブック作成

㊦ イベント・利用向上関係

ヘッドマーク掲出車両お出迎え

山あげ祭6町屋台パレード

100周年記念式イベント

那須烏山市民号（第1・2班）

市職員公共交通チャレンジウィーク

② 市営バス運行

路 線 名	年 度	乗車人員 (人)	使用料収入 (円)	備 考
烏 山 高 部 線	令和4年度	3,689	797,421	平成7年12月1日開設 常陸大宮市から負担金徴収による 共同運行 ※平成28年度に車両更新
	令和5年度	3,108	774,816	
市塙黒田烏山線	令和4年度	5,257	2,257,705	平成8年10月1日開設 茂木町と市貝町から負担金徴収に よる共同運行 ※平成27・令和5年度に車両更新
	令和5年度	3,367	1,424,925	

③ デマンド交通

区 域	年 度	利用人員(人)	収入(円)	国庫補助金	委託料(円)
南那須地区	令和4年度	6,021	1,655,250	1,658,000	9,412,212
	令和5年度	6,012	1,554,200	1,667,000	9,459,076
烏山A地区	令和4年度	5,354	1,419,900	3,313,000	9,583,366
	令和5年度	4,695	1,199,300	1,644,000	9,781,960
烏山B地区	令和4年度	5,911	1,679,700	1,614,000	9,339,386
	令和5年度	5,328	1,416,800	1,674,000	9,542,348
予約センター	令和4年度				12,689,600
	令和5年度				12,689,600

※収入：運行業者に支払われる利用者負担額

※国庫補助金：地域公共交通確保維持改善事業費補助金

※委託料：契約額から収入を除いた額

④ コミュニティバス「馬頭烏山線」（那珂川町が主体となって那須烏山市と共同運行）

年 度	乗車人員(人)	使用料収入(円)	負担金計(円)
令和4年度	21,786	9,302,934	3,299,398
令和5年度	20,937	8,504,630	4,224,804

(3) 地域おこし協力隊

協力隊	任用期間	主な活動内容
2期生 (1名)	令和元年度 ～令和2年度	地域との交流・人脈構築、コミュニティFMを活用した観光PR及び魅力発信に係る番組の企画・制作、出演
3期生 (1名)	令和4年度～	JR烏山線100周年PRに係る特設サイト開設・PR動画制作 クラシックバイク「メグロ」PR・WEBサイト開設、 観光いちご園「いちごの学校」PR・WEBサイト開設
4期生 (1名)	令和5年度～	空き家バンク利活用促進（動画作成・説明会実施） おためし地域おこし協力隊プログラム作成・運営 田舎体験を通じた関係人口創出の企画立案

(4) イメージキャラクター



イメージキャラクター出演状況

(単位：回)

年 度	市 内	市 外	県 外	計
令和4年度	5	6	0	11
令和5年度	22	3	0	25

(5) なすから特派員SNS情報発信事業

年 度	投稿月	SNS投稿数（件）	フォロワー数（人）	閲覧回数（回）
令和4年度	令和4年4月 ～令和5年3月	399	508	22,521
令和5年度	令和5年4月 ～令和6年3月	444	666	46,672

(6) 定住支援

① 移住促進住宅取得奨励金交付実績

(単位：件、円)

年度	区 分		新 築		中 古		合 計	
			件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
令和4年度	転入者	基本額	12	1,200,000	5	500,000	17	1,700,000
		子育て世帯加算	(6)	900,000	(2)	300,000	(8)	1,200,000
		移住者加算	(12)	3,000,000	(5)	1,250,000	(17)	4,250,000
		合計	12	5,100,000	5	2,050,000	17	7,150,000
	在住者	基本額	28	2,800,000	3	300,000	31	3,100,000
		子育て世帯加算	(25)	3,750,000	(2)	300,000	(27)	4,050,000
		合計	28	6,550,000	3	600,000	31	7,150,000
	合 計	基本額	40	4,000,000	8	800,000	48	4,800,000
		子育て世帯加算	(31)	4,650,000	(4)	600,000	(35)	5,250,000
		移住者加算	(12)	3,000,000	(5)	1,250,000	(17)	4,250,000
		合計	40	11,650,000	8	2,650,000	48	14,300,000
令和5年度	転入者	基本額	13	1,300,000	4	400,000	17	1,700,000
		子育て世帯加算	(9)	1,350,000	(2)	300,000	(11)	1,650,000
		移住者加算	(13)	3,250,000	(4)	1,000,000	(17)	4,250,000
		合計	13	5,900,000	4	1,700,000	17	7,600,000
	在住者	基本額	24	2,400,000	4	400,000	28	2,800,000
		子育て世帯加算	(21)	3,150,000	(3)	450,000	(24)	3,600,000
		合計	24	5,550,000	4	850,000	28	6,400,000
	合 計	基本額	37	3,700,000	8	800,000	45	4,500,000
		子育て世帯加算	(30)	4,500,000	(5)	750,000	(35)	5,250,000
		移住者加算	(13)	3,250,000	(4)	1,000,000	(17)	4,250,000
		合計	37	11,450,000	8	2,550,000	45	14,000,000

※ 子育て世帯加算及び移住者加算の件数は、基本額件数の内数となる。

◇施行期間：令和3年4月1日～令和6年3月31日

◇制度の内容：基本額 49歳以下の方が、住宅を取得したとき（新築・中古）10万円

加算額 子育て世帯加算（同居する18歳以下の子を扶養する世帯）15万円

移住者加算（転入日前1年以上他の市町村に住所があった者）25万円

② 移住ファミリー家賃補助金交付実績

年 度	申請件数	うち転入者	金 額	備 考
令和4年度	3 件	10人	198,300円	子育て世帯 3 件
令和5年度	3 件	9 人	284,100円	子育て世帯 3 件

◇施行期間：令和3年4月1日～令和6年3月31日

◇制度の内容：民間賃貸住宅等に転入した40歳以下の夫婦世帯又は49歳以下のひとり親世帯に対し、家賃の一部を補助する。

補助金額：基本額(上限月額1万5千円)と子育て加算の合計額で、最大月額2万円を交付する。
 基本額：補助対象経費(実質家賃-住居手当)の2分の1以内の額
 子育て加算：申請日において、同居する18歳以下の子を扶養しているとき、1人につき月額1千円を加算する。
 補助期間：申請日の翌月から最長12箇月間

③ 空き家バンク住宅改修補助金交付実績

年 度	申請件数	金 額
令和4年度	2件	209,000円
令和5年度	1件	195,000円

◇施行期間:令和3年4月1日～令和6年3月31日

◇制度の内容：空き家等情報バンク制度に規定する利用登録者が、令和3年4月1日以降に空き家バンク住宅を取得し、市内施工業者を利用して、50万円以上の改修工事を行う場合、補助対象経費の10%を補助する。(上限額20万円)

④ 空き家等情報バンク登録件数

年 度	前年度繰越	新規登録	登録取消	成 約	年度末登録件数	成約のうち市外者件数	左記のうち移住者数
令和4年度	18件	11件	3件	11件	15件	7件	18人
令和5年度	16件	11件	1件	10件	16件	6件	9人

⑤ 移住定住相談件数

年 度	相談件数	相 談 内 容
令和4年度	234件	・住宅取得奨励金、家賃補助等 50件 ・空き家バンク 69件 ・電話問合せ 115件 ・イベント等 0件
令和5年度	182件	・住宅取得奨励金、家賃補助等 57件 ・空き家バンク 87件 ・その他(移住全般、移住支援金等) 23件 ・イベント等 15件

⑥ 住宅リフォーム助成金交付実績

年 度	申請件数	金 額
令和5年度	66件	5,883,000円

(7) 環境保全

① 南那須図書館太陽光発電設備稼働状況（発電能力 21.58 k w）

区分 年度	発電量	売電量	売電料	CO2削減量
令和4年度	24,287 k w h	2,889 k w h	24,553円	11.09 t
令和5年度	24,157 k w h	3,163 k w h	26,882円	11.03 t

※CO2排出係数：0.000457t-CO2/kwh（東京電力・令和5年度排出係数）

② グリーンニューディール基金事業整備施設太陽光発電設備稼働状況

区分 年度	施設数	LED街路灯	蓄電池	発電能力	発電量	CO2削減量
令和4年度	6	5基	86.4 k w h	62.5 k w	65,165 k w h	28.73 t
令和5年度	6	5基	86.4 k w h	62.5 k w	72,222 k w h	30.98 t

※CO2排出係数：0.000429t-CO2/kwh（代替値・令和5年度排出係数）

◇施設内訳

烏山南公民館：10.1 k w、リチウム蓄電池14.4 k w h、蓄電池付LED街路灯2基

南那須中学校：10.1 k w、リチウム蓄電池14.4 k w h

七合小学校：10.1 k w、リチウム蓄電池14.4 k w h

保健福祉センター：12.0 k w、リチウム蓄電池14.4 k w h、蓄電池付LED街路灯3基

烏山中学校：10.1 k w、リチウム蓄電池14.4 k w h

江川小学校：10.1 k w、リチウム蓄電池14.4 k w h

③ 公害対策事業

ア 那珂川水系市内小河川水質結果（基準値超過は、網掛け）

（烏山地区採取日：令和5年8月30日 南那須地区採取日：令和5年8月23日）

区分	調査場所	水素イオン濃度	生物化学酸素要求量(BOD)	浮遊物質 量(SS)	溶存酸素量(DO)	大腸菌数	全窒素	全りん	水生生物による水質判定ASPT値		
									総スコア	総点数	平均スコア
烏-1	那珂川最上流	6.4	0.7	1	7.5	9	—	—	—	—	—
烏-2	中山川最下流	7.0	0.5	2	6.8	240	1.1	0.072	48	6	8.0
烏-3	興野橋排水口	7.4	1.4	3	7.4	700	3.3	0.50	21	4	5.3
烏-4	大沢川最下流	7.4	0.5未満	1未満	8.3	14	0.68	0.015	47	6	7.8
烏-5	清水川最上流	7.5	0.7	1	8.0	3,300	—	—	19	3	6.3
烏-6	清水川最下流	8.0	0.6	1	7.5	110	1.1	0.057	42	6	7.0
烏-7	初音橋上流	7.9	1.6	1	6.6	430	—	—	—	—	—
烏-8	江川最下流	8.1	0.6	1	7.8	27	0.74	0.062	76	11	6.9
烏-9	那珂川最下流	8.3	0.5未満	1未満	8.0	7	0.90	0.037	71	9	7.9
烏-10	荒川最下流	8.3	0.5未満	1	8.9	15	0.54	0.064	93	12	7.8

鳥-11	小木須川最下流	8.2	0.6	1未満	7.7	100	0.24	0.036	—	—	—
鳥-12	木須川最下流	8.2	0.5未満	1	7.1	180	0.16	0.034	68	9	7.6
南-1	岩川最上流	6.9	0.8	4	7.7	320	—	—	—	—	—
南-2	岩川最下流	7.2	3.0	5	8.2	6,100	2.9	0.10	48	8	6.0
南-3	江川最上流	7.2	1.2	5	7.0	46	—	—	—	—	—
南-4	荒川最上流	7.2	0.7	2	8.1	30	—	—	—	—	—
南-5	大川最上流	7.3	4.1	18	7.6	63	1.3	0.054	—	—	—
南-6	大川最下流	7.2	1.0	4	8.2	98	1.1	0.060	28	5	5.6
南-7	長者川最下流	7.3	0.8	10	8.6	1,000	1.6	0.073	—	—	—
南-8	隅川最下流	7.3	0.5	1	9.0	940	0.82	0.033	38	5	7.6
南-9	逆川最下流	7.3	1.1	9	8.7	650	0.87	0.10	73	9	8.1
南-10	小貝川最上流	7.0	1.2	6	4.8	10	0.66	0.064	—	—	—
南-11	小貝川最下流	7.1	0.8	14	8.6	710	1.1	0.050	36	5	7.2
環境基準値 (水産1級・ 水道2級)	基準値	6.5～ 8.5	2以下	25以下	7.5以上	300以下	—	—	ASPT(平均スコア)値 は、1～10までで10 に近いほど自然環 境が良好です		
	単 位	pH	mg/L	mg/L	mg/L	CFU/100mL	mg/L	mg/L			

イ 公害苦情等の発生状況

(単位：件)

区分 年度	ばい煙	粉塵	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	悪臭	その他	計
令和4年度	3	0	0	0	2	0	3	2	10
令和5年度	6	0	0	0	1	0	0	1	8

④ 保健予防事業

ア 犬の登録及び狂犬病予防注射接種の状況

(単位：頭)

区分 年度	犬の登録頭数 (うち新規登録)	予防注射接種頭数 (うち集合注射)	予防注射接種率
令和4年度	1,271 (58)	834 (338)	65.6%
令和5年度	1,219 (59)	750 (272)	61.5%

イ 野犬の捕獲状況

(単位：頭)

区分 年度	動物愛護指導センター	那須烏山市	合 計
令和4年度	26	1	27
令和5年度	6	0	6

ウ 飼い犬等の不妊手術の状況

(単位：頭・円)

区分	令和4年度		令和5年度		累計（平成28年度から）	
	雌犬	雌猫	雌犬	雌猫	雌犬	雌猫
不妊手術頭数	14	77	9	69	89	558
補助金交付額	70,000	308,000	45,000	276,000	445,000	2,232,000

(8) 環境対策

① 清掃事業

ア 一般廃棄物収集計画対象人口

(3月1日現在)

年 度	令和4年度	令和5年度	比 較
人 口	24,506人	23,925人	△581人

イ 生ごみ処理機器設置状況

区 分	令和4年度	令和5年度
生 ご み 処 理 容 器	16基	2基
機 械 式 生 ご み 処 理 機	2基	4基
補 助 金 交 付 額	94,100円	101,300円

ウ 資源ごみ回収状況

区 分	団体数	実施回数	売 却 額 (重 量)				報償金 交付額
			紙類	金属類	ビン類	計	
令和4年度	5団体	40回	376,090円 (86.4 t)	2,105,396円 (22.8 t)	10,116円 (4.9 t)	2,491,602円 (114.1 t)	486,010円
令和5年度	6団体	41回	390,961円 (89.9 t)	1,837,986円 (21.1 t)	9,648円 (1.4 t)	2,238,595円 (112.4 t)	490,470円
比 較	1団体	1回	14,871円 (3.5 t)	△267,410円 (△1.7 t)	△468円 (△3.5 t)	△253,007円 (△1.7 t)	4,460円

エ 分別一般廃棄物保健衛生センター搬入状況

(単位：t)

区 分	令和4年度 (A)	令和5年度 (B)	比 較 (C)=(B)-(A)	増減率 (%) (D)=(C)/(A)
燃やすごみ	6,279.3	5,954.8	△324.5	△5.2
資源物	692.9	646.3	△46.6	△6.7
茶色ビン	86.4	84.4	△2.0	△2.3
無色ビン	63.4	59.4	△4.0	△6.3
茶色無色以外のビン	27.8	24.8	△3.0	△10.8
アルミ缶	1.4	3.5	2.1	150.0
スチール缶	3.3	1.5	△1.8	△54.5

ペットボトル	67.4	62.6	△4.8	△7.1
ダンボール	131.3	101.7	△29.6	△22.5
新聞	72.1	67.4	△4.7	△6.5
雑誌	96.4	113.9	17.5	18.2
布類	141.5	125.4	△16.1	△11.4
飲料用紙パック	1.9	1.7	△0.2	△10.5
燃やさないごみ	241.0	224.7	△16.3	△6.8
粗大ごみ	211.1	204.0	△7.1	△3.4
有害ごみ	9.7	9.1	△0.6	△6.2
合 計	7,434.0	7,038.9	△395.1	△5.3

オ 動物の死骸回収状況

(単位：件)

年 度	令和4年度	令和5年度
件 数	326	322

カ 小型家電の回収状況

(単位：k g)

年 度	令和4年度	令和5年度
重 量	9,120	8,753